

第6回第九定期演奏会は千島体育館最後の演奏会です！！

大正フロイデ
副団長 西村 東一



大正区第九合唱団のデビュー公演は、平成十九年二月十八日のことでした。それはドイツ兵のいた「大阪俘虜収容所」が閉鎖された日であり、その時の写真も残っています。私たちは捕虜たちに励ましと、友情の気持ちを込めてその日を選びました。その会場に選んだのが千島体育館でした。音響も悪く、寒さも気になりましたが、大正区で一番大きな建物だったからです。スタンドを合唱団が占め、観客がフロアに座るといふ突飛な設定の下、大正区で未だかつてなかった、オーケストラ演奏による「第九」演奏を

行いました。準備期間八ヶ月、ほとんどが全くの素人でしたが、演奏会終了直後の感激と「ブラボー」の歓声が強く印象として残っています。それから五年が経ちました。

大正区民合唱団大正フロイデはこの時の大正区第九合唱団が母体であり、今も「第九」を主力として活動しています。

流石に歌った時の感激は当初ほどではありませんが、毎回少しずつ到達度は上がっているように思います。第五回からは区内中学生らの吹奏楽部ともコラボしています。

指揮者は我が高谷さんがずっと続けていただき、ソリストも野上さんと西垣さんはずっと、熊本さん、西田さん、福島さん、角地さんもおられました。

エウフォニカ管弦楽団と総合プロデュースの西本さん、合唱指導の小川さん、やピアノニストの岡林さん、西浦さんもそうです。皆さんにこの演奏会を支えて頂いております。

「第九」とともに「ふるさと」の四季、「モーツァルトのレクイエム」、「威風堂々」、「大地讃頌」、「アイーダ」そして今回の「サウンドオブミュージック」を第一部の曲として選びました。本当に徐々にではありま

すが、レパートリーを広げ、その研鑽が昨年九月の大正フロイデ五周年記念コンサートへも繋がったのだと思います。

そんな「第九」もこの会場で行うのが今回限りとなりました。

経費の削減のため、次回からは会場は区民ホールとなりますが、運営は出来るだけ現行に近い形にしたいと思っています。

そのためにも大正区役所やコミュニティ協会大正区支部の大きな支援が必要です。私たちも出来るだけ区民の方々に歌声を還元させるとともに、区の事業にも協力していきたいと考えています。

いずれにせよ、歌声が響く町は幸せです。東日本大震災でも随分歌声が励ましを与えたようです。

厳しい、そして世知辛い世の中であればあるほど歌声を響かそうではありませんか！！

ドイツワインと大正フロイデ



テノール 井 昭
石

私たち合唱団の「四季の歌」と「第九・Mのパート」を歌って始まった「大正フロイデとドイツ友好のつどい」は、ドイツビールで乾杯の後、五周年記念コンサート冒頭での藤井氏講演会DVD上演と続きました。記念コンサートの時は舞台裏で待機していたので、詳しい事は分からなかったのですが、一〇〇年前の事を良くここまで調べて下さったと思います。

私たちの先人が俘虜に対して温かく、そして優しい気持ちで接しておられたであろう事や、又、ドイツの人々のおおらかさが講演を通して感じられました。

副団長を務め、常に精力的に団員をリードして頂いている、元区長の西村さんは区長時代から多くの資料を発掘され、私たちの合唱団・大正フロイデを立ち上げられたのだと思いました。続いて上演された記念コンサート一部での氏の演技を見て、改めてその情熱を強く感じました。

暖められた赤ワインの他、数種類のワインを頂きながら、ドイツのお話を色々聞く事も出来ました。

大正フロイデの活動が、日独友好に寄与出来るなら、今以上にレベルを上げ、次の世代にバトンをつなぐ迄、頑張りたいと思っています。

夢の舞台に立つ幸せ



アルト 村松 英子

「大正フロイデ」には先輩に誘われて、二年目から参加させて頂きました。

歌が大好きで、練習は発声から「頭の中を開けて、声を響かせて、お尻を閉めて」と分かりやすく丁寧に教えて頂き、とても楽しい時間になりました。

合唱は全くの初心者です。ので、難しい曲を何度も繰り返し返し熱心にご指導頂き、本当に有難いです。

本番で素晴らしいハーモニーが出せた時の感動は計り知れません。

平凡な大阪のおばちゃん(笑)が夢の舞台に次々と立たせて頂けるなんて、とても幸福です。

西本先生、諸先生方に感謝、お世話して下さいる皆様、団員の皆様に感謝の気持ち一杯です。

これからも第六回定期演奏会に向けて、楽しい大正フロイデに優先的に参加しようと思っています。

